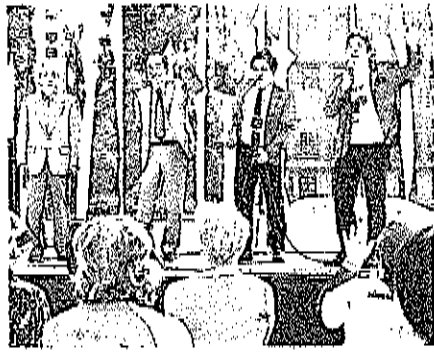


# 原発事故 現実に目を

## 「回帰反対」 各地で訴え

岸田政権が震災後の政策を大きく転換し、原発の新規建設や60年を超えた運転



追悼集会で登壇した(左から)小泉純一郎元首相と菅直人元首相、福島県からの参加者ら。11日午後、東京都千代田区の日比谷公園

を可能とする方針を打ち出す中、初めて迎えた「3・11」。この日、福島県など各地で原発回帰に反対する集会などが開かれた。

福島市の国道114号沿いには反対する市民ら約80人が並び、「3・11を忘れない」「原発ゼロ」などと書いた横断幕やプラカードを掲げた。医療機関を運営する福島医療生活協同組合が呼びかけた。

参加した同市の二階堂寛子さん(79)は、東京電力福島第一原発が立地する福島県双葉町出身。津波と原発

事故の影響で、実家に住んでいた家族が今も避難を余儀なくされている。福島の人いる。「政権は多くの人があることに帰れない現実に全く目を向けていない」と語気を強めた。

双葉町では昨年8月、ようやく避難指示が解除された。町内に人が住めるようになった。この間、帰郷できずに亡くなった人もいた。

「長期化する避難生活が心も身体も苦しい、命を短くした」と感じ、原発回帰に警鐘を鳴らす。

ただ、エネルギー価格の高騰などから原発の新規建設などを支持する声が上が

るのも理解できると話す。「現状に諦めや戸惑いもある。どうしたら私たちの気持ちや経験を分かってくらえるのか」と悩み続けていると打ち明けた。

同県伊達市の佐々木荘之助さん(75)は、原発を巡る最近の政権の動向に事故の風化を感じる。「原発事故の苦しみは経験した人しか分からない。だから、福島から原発反対を訴えている。どうか今こそ福島の声に耳を傾けてほしい」と話した。

東京都千代田区の日比谷公園であった震災犠牲者を悼むイベントには約500人が集まった。地震発生時刻に合わせて黙禱をした。

イベントは震災翌年から続き、今年も小泉純一郎、菅直人の両元首相が参加。登壇した小泉氏は「原発ゼロはやればできる。与野

党、右も左も関係ない。今また原発を増やそうとしているのはどうかしている」と批判。菅氏は「ウクライナ情勢で明らかのように、安全保障の観点からも原発が国内にあることは危険だ」と話した。

福島県二本松市から参加した近藤恵さん(43)は「2度目の原発事故が起きないためにも、この日はもっと意識されないといけない」と話した。

(丸丸祥子、富野拓也)